

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100308		
法人名	株式会社EPO		
事業所名	グループホーム えん	ユニット名 さくら・かえて	
所在地	福岡県北九州市門司区田尾浦2丁目9番33号		
自己評価作成日	平成25年1月31日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年2月26日	評価結果確定日	平成25年7月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・オーダーメイドのケアを実施している。 ・今まで送ってきた生活を大きく変えず、その人らしく暮らす支援。 ・認知症ケアが出来る人材の育成 ・自己選択・自己決定の尊重 <p>起床時間や就床時間を決めない事や、食事についても時間をずらして食べても良い。買い物も自身にて好きなものを自分で選び購入する。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>少し足を延ばせば関門海峡が望める場所にあり、1階には小規模多機能型居宅介護事業所、2階がグループホームとなっている。多機能ホーム「えん」として、毎週火曜日にマルシェ(小さな市場)を開催し、生鮮食品やパン、惣菜等を販売している。高齢化率の高い地域の買い物事情にも配慮した取り組みであり、地域コミュニティの活性化に向けた積極的な働きかけが行われている。事業所名である「えん」は、「縁」「円」「援」「園」「宴」という5つの「えん」を大切に捉え、地域密着型サービスとしての機能を発揮していくために、目指すべき方向性を明確にしたものであり、開設初年度ではあるが、様々な場面において、その実践をうかがうことが出来る。本人の意向を大切に捉えようとするアセスメント様式をもとに、詳細な情報収集も重ねられており、今後もそれぞれの方の「暮らし」に向き合いながら、心身の変化に寄り添い、個別性ある支援の追求が期待される事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新任研修の実施。基本方針の提示による理念の享有を図っている。また、研修を行い、名札に入れていつでも確認できるようにしている。職員会議に唱和するようにしている。	基本方針として、事業所名に由来する「緑」「円」「援」「園」「宴」という5つの「えん」を掲げ、名札の中に入れて、職員会議の際には、皆で唱和して浸透を図っている。職員と共に地域に根差した事業所としてのサービス提供を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の加入・・・公民館行事・市民センター行事への参加(盆踊りや運動会など)・ 田野浦小学校の子供たちとの交流・地域の清掃活動への参加	町内会に加入し、公民館や市民センターで開催される地域行事や清掃活動に参加している。事業所でのソーム流しを地域に案内したことで、小学生との交流も始まっている。毎週火曜日には、マルシェ(市場)の場所を提供し、生鮮食品や惣菜を販売し、地域の方との交流の機会ともなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の講師の派遣、認知症草の根ネットワークへの参加とSOSネットワークづくりへの協力。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議議事録参照・・・毎回プロジェクト使用し、日頃の活動の様子を報告・話し合いをし、参考意見の実施に努めている。	併設される小規模多機能型事業所との合同で、利用者、家族、町内会会長、公民館館長、民生委員、地域包括支援センターなどの出席を得て、地域交流室「夢咲村」で2か月に1度開催されている。活動報告や活発な意見交換がなされ、サービス向上に結び付けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	GH連絡会を3ヶ月に1度開催・参加し、ケアの向上について、相談し合っている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ている。また、日頃から情報共有を図り、アドバイスをいただいている。認知症サポーター養成講座の開催時には講師を派遣し、地域のネットワークづくり等を通じて、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員によるオフJTの研修・職員会議での伝達研修・新任研修の中で「身体拘束をしない」事を周知している。	日中は、玄関や1階の他の出入り口も施錠していない。リスクに関するアセスメントも実施され、家族とも相談しながら、居室の環境整備も行われている。研修や会議を通じて、身体拘束をしないケアについて共有認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員によるオフJTの研修・職員会議での伝達研修・新任研修の中で虐待についての研修を実施している。		

福岡県 グループホームえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議において、次年度権利擁護の研修を実施するよう研修計画を立てる。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、年間計画の中で研修が予定されている。運営者をはじめとして、多機能ホームとして制度活用に向けた経験豊かな職員もおり、必要時には活用できる体制にある。今後、各職員の理解や知識の深まりが期待される。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約におけるマニュアルを作成し、すべての利用者の開始にあたって説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設置している他、「ご意見箱」の設置と満足度調査のアンケートを年に1回実施する。(アンケートは3月を予定している)	1階事務所入り口に意見箱を設置し、アンケート調査も予定されている。運営推進会議には、利用者、家族の参加を得て、意見や要望を表出できる機会としている。家族会の発足に向けた検討が行われている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者の会議また、月に1回の職員会議の実施や、フロア会議の実施。(会議議事録参照)	定期的な全体会議や随時のフロア会議、また、日常の中でも職員の意見やアイデアを収集し、管理者会議等を通じて検討を行い、運営への反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則をいつでも見える場所に置くようにしており、職員がいつでも確認できるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用にあたってはハローワークを通して採用しており、働きながら学校に行くことや、資格取得の為に休日の保証など配慮している。	採用にあたり、性別や年齢等による制限は行っていない。働きながら学んでいた職員も無事に卒業している。ヨガのインストラクターの資格を活かし、健康体操を実施し特技を発揮している職員もいる。資格取得や希望休などに配慮し、職員の特性を生かして、働きやすい職場環境作りに努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員の人権教育については、年間の研修計画の中に位置づけている。(3月に実施予定)	年間研修計画の中に位置付け、また、外部研修でも学ぶ機会を持ち、伝達を通じて、意識を深めている。日々の業務の中でも、気付いた点を話し合い、共有認識を図っている。	

福岡県 グループホームえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や得意分野の研修については、オフJTの研修、施設寝衣においては、介護技術研修を実施している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会へ参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にアセスメント実施し、事前に情報収集を行うと同時に、本人が安心できる物を身近に置くようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人とは別の場所・別の時間に家族の思いや願い、介護への希望を聞き取るようにしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの中で、訪問歯科・訪問理美容などを提案し、位置づけている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や掃除、食事を一緒に行ったり、配膳をしていただくなど、役割をもって生活している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、受診の時に送迎を含めた支援または、買い物など出来るだけ毎週1回位を目標に関わって頂く。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が訪ねてきやすい環境づくり。また町内行事、季節の行事にはなじみの場所に出かける取組みをしている。	新聞や月刊誌の購読等、これまでの暮らしの継続を支援している。地域住民である職員も多く、馴染みの関係性の継続に向けた支援は、何気ない日常の中にもある。	

福岡県 グループホームえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	テーブルの位置や人との組み合わせ、居室の位置など 配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	入院が長くなり、サービスを中止している方へは、 病院などに訪問したり、家族と連絡している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や、これまでどのような生活をしてきたか を把握し、本人の想いや願いを把握している。(アセ スメント用紙参照)	ライフスタイルや趣味活動、嗜好や栄養面、環境面等、 様々な視点から、アセスメント情報が丁寧に収集さ れている。また、日常の気づきを共有しながら、職員 間で検討を行い、思いや意向の把握に努め、介護計 画作成に結び付けている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント用紙を使って生活歴を把握している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	アセスメント用紙を使って把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計 画を作成している	本人・家族・フロア会議にて話し合いを行っている。 (会議議事録参照)	本人、家族の意向を踏まえ、カンファレンスにて協議 を行い、日課や役割が具体的に示された個別性ある 介護計画を作成している。定期的なモニタリングを通 じて、現状の確認と見直しの必要性について検討し ている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や 介護計画の見直しに活かしている	介護記録を時系列に記載している。また、希望に沿 って介護計画書の見直しを行い、目標に向かう1人 ひとりの日課を決めている。		

福岡県 グループホームえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マルシェえんの時には、新鮮な魚を見たり、自分の買いたいものを目で見て購入出来るように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の子どもたちとの交流や、町内運動会の参加、そうめん流しの参加など。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診体制：西明内科消化器科医院・鶴木消化器内科にて往診して頂いている。新小文字歯科についても、週に1回往診に来て頂いている。	入居時に、かかりつけ医について確認を行っている。家族との連携による受診を基本としているが、必要に応じて職員が同行し、情報の共有に努めている。複数の協力医による往診体制も確立し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に状態変化ある時は報告し、指示を受けている。緊急時の対応の報告。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	掖済会病院・メディカル病院・蒲生病院・新小文字歯科の地域医療連携室との連携を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針・終末期の同意書を説明の上、署名・捺印を頂いている。現在、終末期の方はいない。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について説明を行い、意向確認及び同意を得ている。状況の変化に伴い、その都度の意向確認と話し合いを重ね、関係者間での方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回救急救命の訓練を実施している。(研修記録参照)		

福岡県 グループホームえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策のマニュアル作成中。	併設するグループホームとの合同で、避難訓練を実施している。事業所の活動案内を地域に配布する際に、訓練についても案内を行っている。昼夜を想定した訓練を計画的に実施していく予定である。	地域への積極的な働きかけも行われており、災害時の協力体制の構築に向けた働きかけが行われている。地域との連絡体制の確認や、ライフラインの遮断を想定した準備等、今後も取り組みを積み重ねていく意向である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は同性介助を基本とし、個浴を実施している。敬語を使った対応をしている。	入居者一人ひとりの理解に努め、個人の尊重に努めていることが、情報収集の内容からもうかがえる。入浴時や排泄ケアの際には特に留意し、声かけや対応に配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	マルシェの買い物・自分で洋服を選ぶ・食事の量(おかわりなど)		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や、就寝時間、食事の時間等は決めず1人ひとりの生活リズムに合わせた支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をしたり、マニキュアを塗るなど手のお手入れをしている。不定期ではあるが、メイクアップ教室なども開催している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際の準備や後片付けなど、職員・利用者一緒に行っている。職員も一緒に食事をしている。また給食会議も実施し、意見等を聞くようにしている。(会議議事録参照)	1階厨房での調理となり、給食会議等を通じて、個別のサービス向上に取り組んでいる。毎月1日は赤飯の日である。厨房との連携により、皆でたこ焼き作りを楽しんだり、外食に出かけたりと、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて、栄養士が献立を作成している。水分補給も細めにして頂く為、声掛けしている。熱計表に水分を記録して、水分摂取量の把握を行っている。		

福岡県 グループホームえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後口腔ケアの声掛け、支援を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表作成し、排尿間隔の把握をしながら支援を行っている。	排泄表を作成している。会議でも個々の状態について検討し、声掛けなどを工夫している。職員の提案により、夜間尿器を利用したことで、失禁の減少と尿意の表出が顕著に現れるようになった事例もあり、QOLの向上と心身の自立への支援につなげている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて排便の有無の確認・担当医との内服薬の調整の支援。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて週あたりの入浴回数を決めている。	毎日入浴準備を行い、希望や状況、体調等を鑑み、柔軟に支援を行っている。2ユニットの浴槽が対照的に設置されており、個別の状況に応じたアプローチが可能である。アセスメント様式として、入浴や着替えについての希望や悩み等について、情報収集が行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就床・起床は一律に行わない。毛布などお気に入りの物を持参している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員が行っている。翌日の薬は夜勤職員が準備し確認を行っている。服薬時は、間違いがないよう名前・日付を確認後内服している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	メダカの餌やり・水替え・食器洗い・食器拭き・掃除・シーツ交換・洗濯物たたみ等1人ひとりに役割を持って頂いている。外出は週1回程度で、買い物や公園など、希望の場所へ行くようにしている。		

福岡県 グループホームえん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日用品の購入時の外出や、初詣・足湯・イルミネーションツアーなど外出の機会を作っている。	臨海公園やコンビニエンスストア、ドラッグストア等には、日常的に少人数で出かけている。毎週火曜日の敷地内で開催されるマルシェ(市場)や、地域の行事に参加し、地域の方との交流を図っている。中心市街地でのイルミネーションツアーを企画する等、積極的に外出支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金の管理をする方もいるが、認知症の為、自身にて管理できない方は、家族にお願いしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時は職員が電話をかける支援を行っている。みまもり携帯を持たれ、連絡をする方もいる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、空調の調整・加湿器の使用・食事のメニューを貼るなどしている。	多機能ホームえんの2階部分にグループホームは位置している。飾り付けや圧迫感のない間仕切り等、随所から配慮や工夫が伝わってくる。また、ソファの設置等、くつろぎの場所も確保されている。多機能ホームとして、理美容室やサウナが設置されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置をずらしたり、広げたりしてその時々を使い方を工夫している。座席を固定せず、好きな所に座り、気の合う方と話が出来るようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、時計やカレンダー、家族の写真など飾り、安心して過ごせるようにしている。	クローゼットが設置されている各居室は、希望や状況に応じて、ベッドや布団が選択されている。家族の写真や花が飾られ、仏壇が持ち込まれる等、個々に応じた部屋作りとなっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにしている。(段差をなくしている)手すりをつけている。		